



“地域のことは地域で考えよう”

2017年11月28日

おきぎん県内景況・速報 2017年10月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年10月分)

◎2017年10月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

10月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月上回りました。百貨店売上高は雑貨などが伸び、前年同月上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、エアコン、洗濯機などが伸び、前年同月上回りました。新車販売台数は小型乗用車、軽乗用車などの需要増加により、3ヵ月連続で前年同月上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県ならびに市町村発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月上回りました。

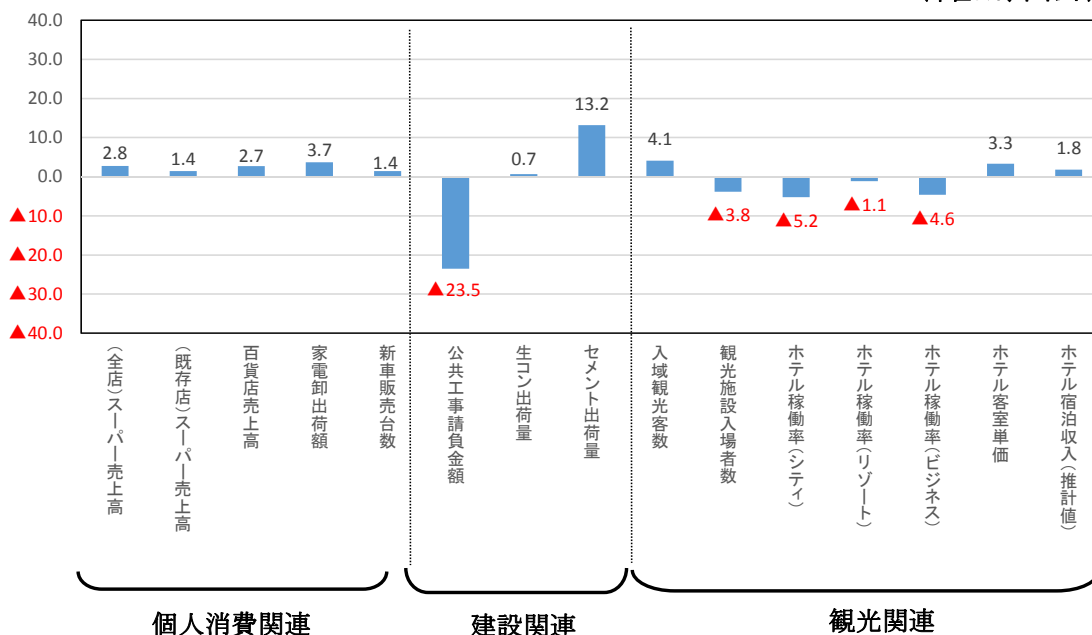
観光関連では、入域観光客数は61ヵ月連続で前年同月上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から45ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)

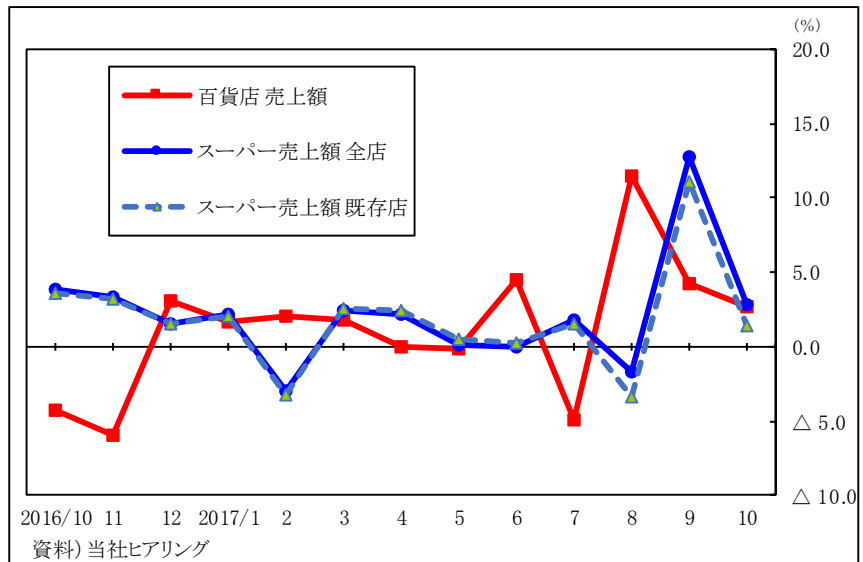




■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2016/10	3.8	3.6	△ 4.3
11	3.4	3.2	△ 5.9
12	1.6	1.5	3.1
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0
3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02
5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7

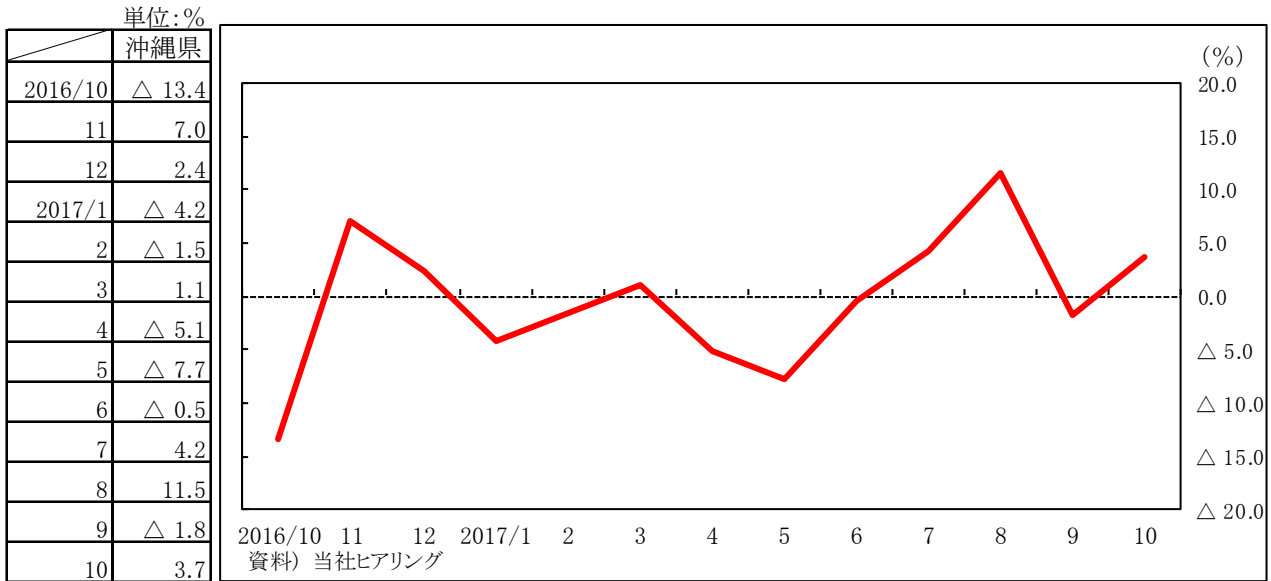


注) 前年同月比

10月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 2.8%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 3.1%増)」「家庭用品(同 2.5%増)」などの売上が伸び、前年同月を上回りました。「既存店ベース(同 1.4%増)」は、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 1.7%増)」は、販促効果により精肉などの生鮮食品が好調だったことに加え、惣菜、日配品の売上が伸び、前年同月を上回りました。また家電を含む「家庭用品(同 0.5%増)」は、テレビなどが好調だったことに加え、化粧品等の需要が増加し、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、中国の大型連休によるインバウンド需要が伸びたことなどから、前年同月を上回りました(同 2.7%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 4.5%減)」は、紳士服(同 7.5%増)がスーツや秋物カジュアル商材の売れ行きが好調だったものの、「婦人服(同 9.2%減)」は、単価の高い冬物の売上が伸び悩み、衣料品全体としては前年同月を下回りました。また、「食料品(同 4.4%減)」は、台風接近による臨時休業などの影響により、売上が伸びず、前年同月を下回りました。一方で、「雑貨(同 14.6%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。また、新規催事の開催により、「家庭用品(同 19.0%増)」や、関連グッズ販売を含む「サービス(同 53.1%増)」の売上が伸び、前年同月を上回りました。

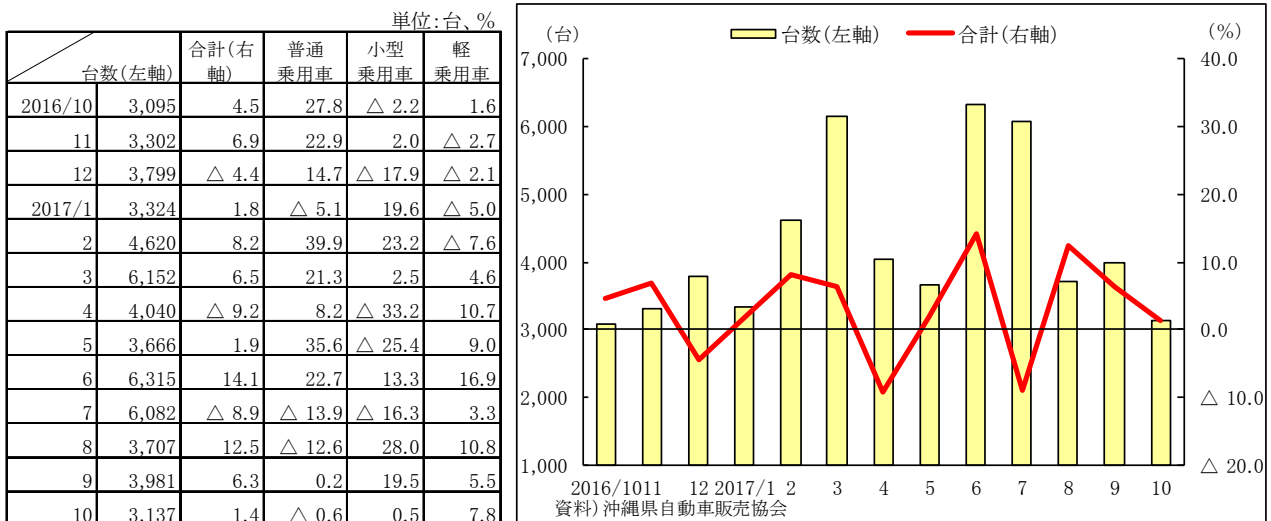
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を上回る



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、冷蔵庫の売れ行きが伸びなかったものの、エアコン、VTR、洗濯機などの需要が増加し、全体としては2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 3.7%増)。品目別では、「エアコン(同 5.0%増)」は、月前半が前年に比べ気温が高く推移したことから、前年同月を上回りました。「洗濯機(同 3.1%増)」、「VTR(同 42.0%増)」は、買い替え需要が増加し、前年同月を上回りました。一方、「テレビ(同 18.8%減)」、「冷蔵庫(同 1.2%減)」は、前年に新型商品効果や販促効果により伸びた反動により、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,137台(同 1.4%増)となり、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同 0.6%減)」は、前年に伸びた反動などから、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「小型乗用車(同 0.5%増)」は、レンタカー需要の増加などにより、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。「軽乗用車(同 7.8%増)」は、需要が堅調に推移し、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

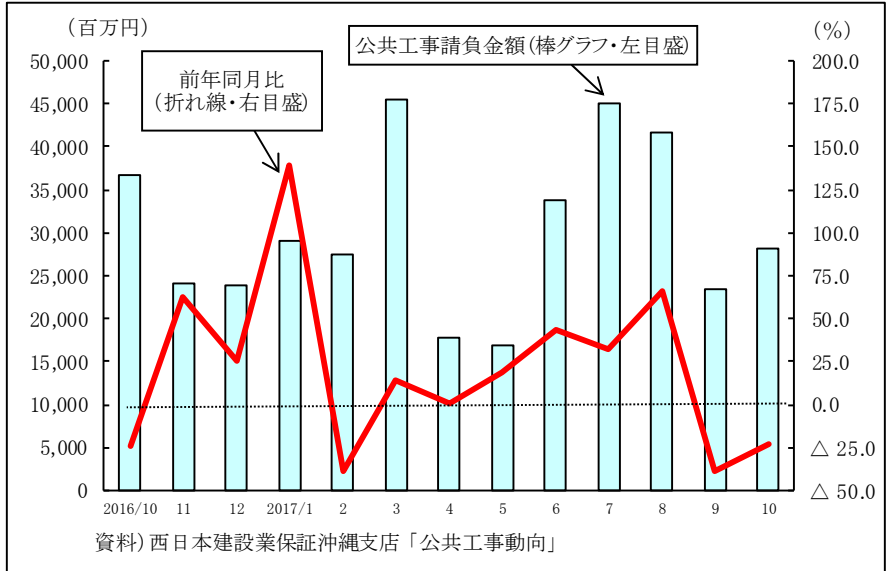


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2016/10	36,683	△24.1
11	24,026	62.2
12	23,920	25.1
2017/1	29,148	138.9
2	27,499	△38.6
3	45,553	14.0
4	17,823	0.7
5	16,886	18.4
6	33,703	43.9
7	45,031	31.8
8	41,576	66.3
9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5

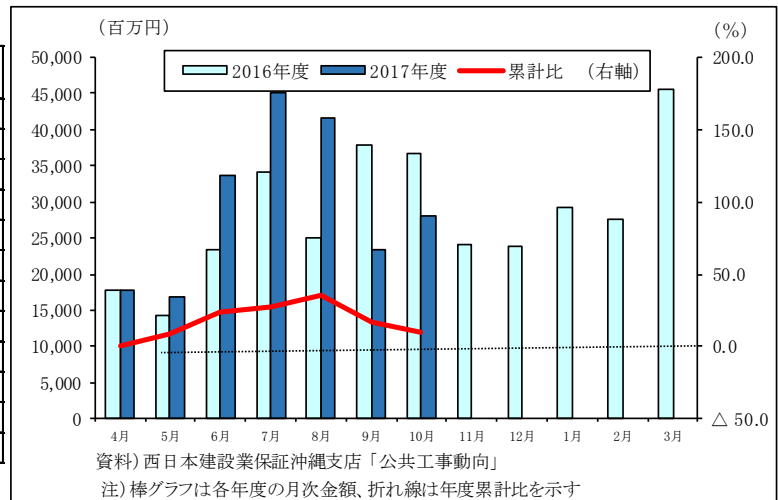


10月の公共工事請負金額は、前年同月比23.5%減の280億7,300万円となりました(2ヵ月連続減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同113.7%増)」や「その他の公共的団体(同64.6%増)」は水準が低かった前年同月を上回りました。一方で、「国(同17.5%減)」は前年あった那覇空港滑走路増設工事などの大型工事の反動、「沖縄県(同52.4%減)」は前年あった北谷町での浄水場関連工事のほか、都市モノレール関連工事の反動、「市町村(同11.0%減)」は前年あった沖縄市での小学校校舎建築工事の大型工事の反動などで前年同月を下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

	2016年度	2017年度	累計比(右軸)
4月	17,690	17,823	0.7
5月	14,261	16,886	8.6
6月	23,421	33,703	23.5
7月	34,156	45,031	26.7
8月	24,997	41,576	35.4
9月	37,867	23,363	17.1
10月	36,683	28,073	9.2
11月	24,026		
12月	23,920		
1月	29,148		
2月	27,499		
3月	45,553		

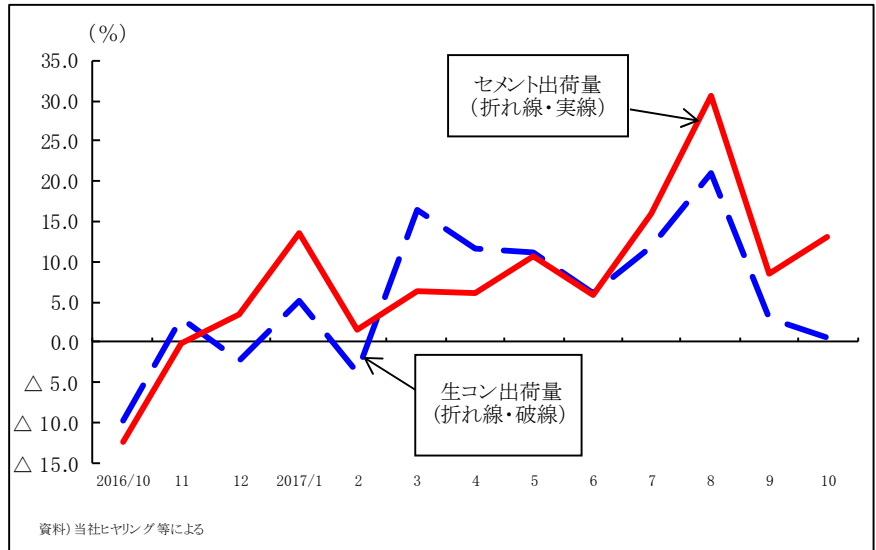


今年度4月～10月までの累計を前年度同期と比較すると、9.2%増となっています。(上記折れ線グラフ)

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

単位:前年同月比(%)

	生コン	セメント
2016/10	△ 9.9	△ 12.4
11	3.0	△ 0.1
12	△ 2.4	3.5
2017/1	5.1	13.5
2	△ 3.7	1.6
3	16.5	6.3
4	11.6	6.1
5	11.1	10.7
6	6.1	5.9
7	11.8	15.9
8	21.0	30.6
9	2.9	8.4
10	0.7	13.2



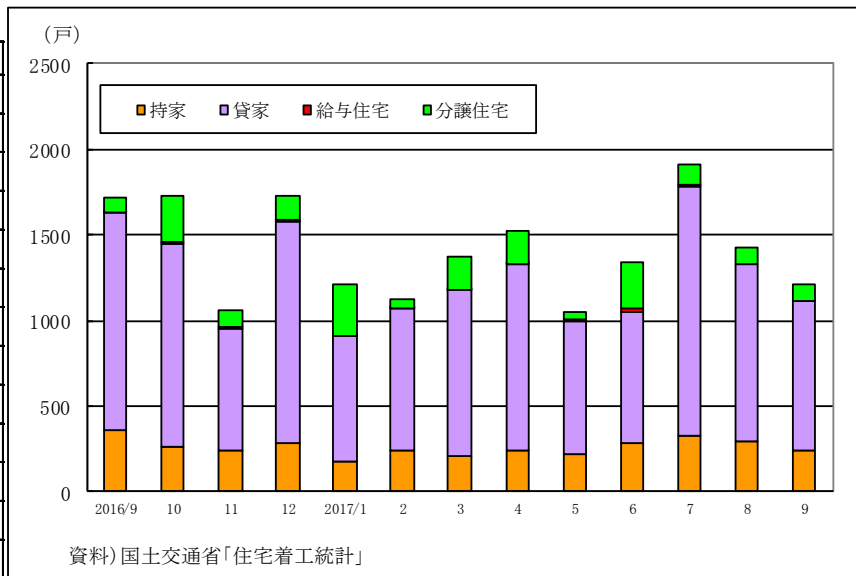
(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は 0.7%増と 8 ヶ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 9.8%上回り、民間工事向け出荷は 3.9%下回りました。セメント出荷量は 13.2%増と 11 ヶ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資 (9月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

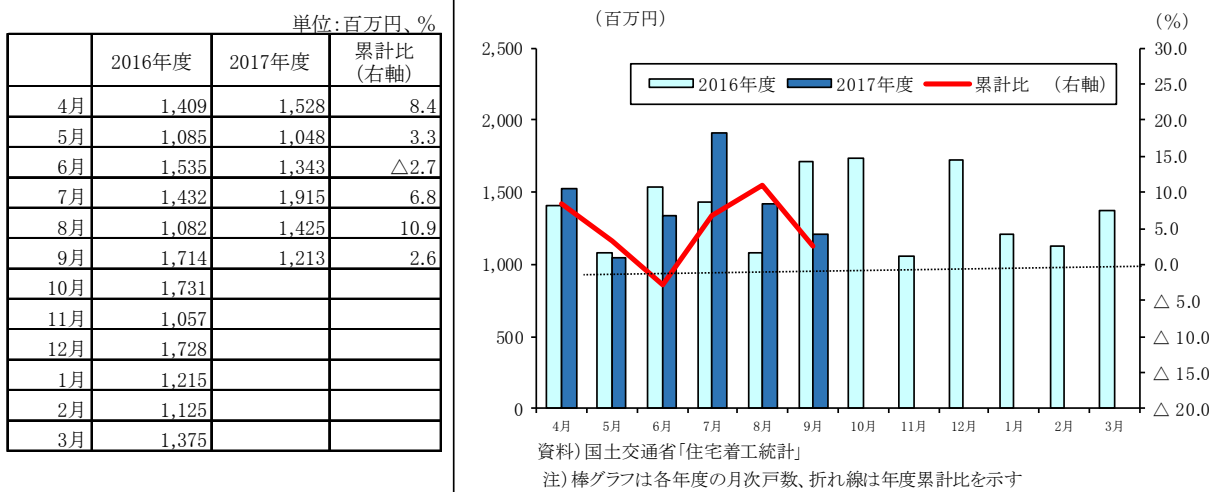
単位:戸、%

	着工戸数	前年同月比
2016/9	1,714	12.2
10	1,731	54.8
11	1,057	△19.1
12	1,728	32.3
2017/1	1,215	△11.1
2	1,125	12.5
3	1,375	29.5
4	1,528	8.4
5	1,048	△3.4
6	1,343	△12.5
7	1,915	33.7
8	1,425	31.7
9	1,213	△29.2



新設住宅着工戸数 (9月) は、全体で前年同月比 29.2%減の 1,213 戸と 3 ヶ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家 (同 31.7%減)」や「持家(同 31.8%減)」は前年同月を下回った一方で、「分譲住宅(同 22.5%増)」は上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。



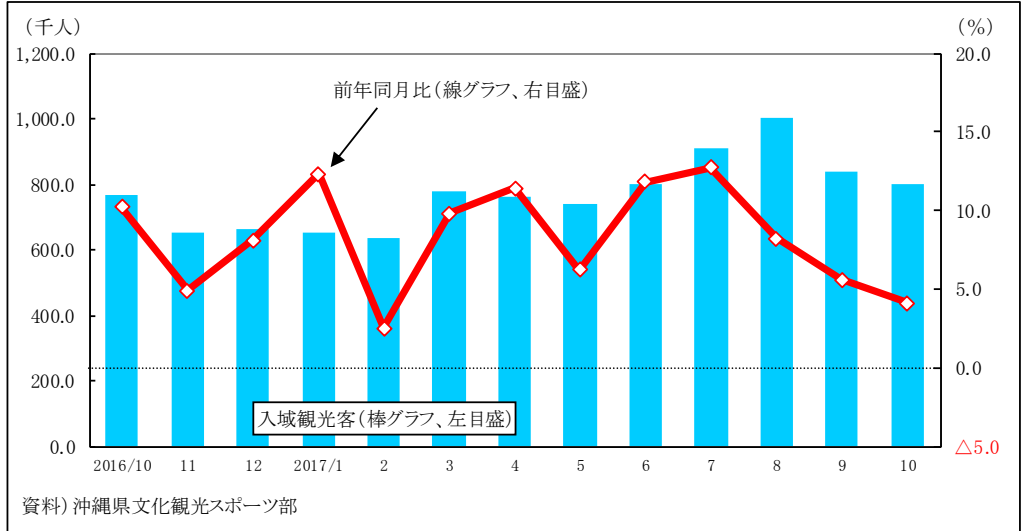
年度累計で見ると、2.6%増となっています。(上記折れ線グラフ)



■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・61ヵ月連続で前年同月を上回る。

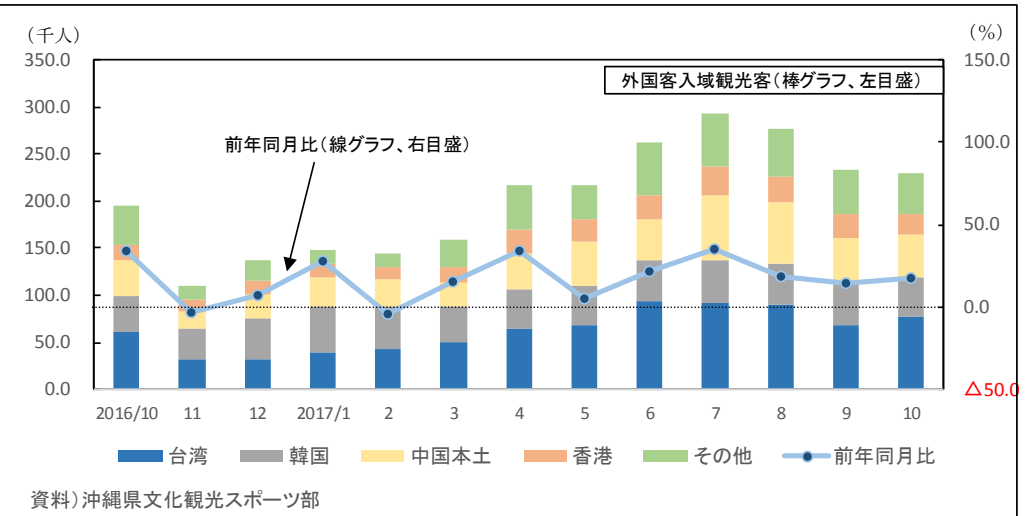
単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/10	767.9	10.2
11	650.2	4.9
12	663.0	8.1
2017/1	653.0	12.3
2	637.9	2.5
3	778.5	9.8
4	759.2	11.4
5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・8ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/10	194.7	34.2
11	110.2	△2.8
12	137.2	6.9
2017/1	147.2	28.1
2	144.1	△3.9
3	158.4	14.9
4	217.6	34.2
5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7



※外国客は乗務員等を含む

10月の入域観光客数は、31,400人多い799,300人(前年同月比4.1%増)となり、61ヵ月連続で前年同月を上回りました(10月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同0.5%減)」は570,100人と、修学旅行や離島直行便において需要に好調さがみられたものの、台風(21号、22号)の影響等により欠航便や旅行キャンセルが多数発生したことから、19ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

他方、「外国客(同17.7%増)」は、229,200人と8ヵ月連続で前年同月を上回りました。台風の影響により一部クルーズ船の欠航があったものの、大型連休絡みのチャーター便就航や、航空路線の拡充(香港-石垣路線の増便等)効果、大型クルーズ船の寄港等により前年同月を上回りました。

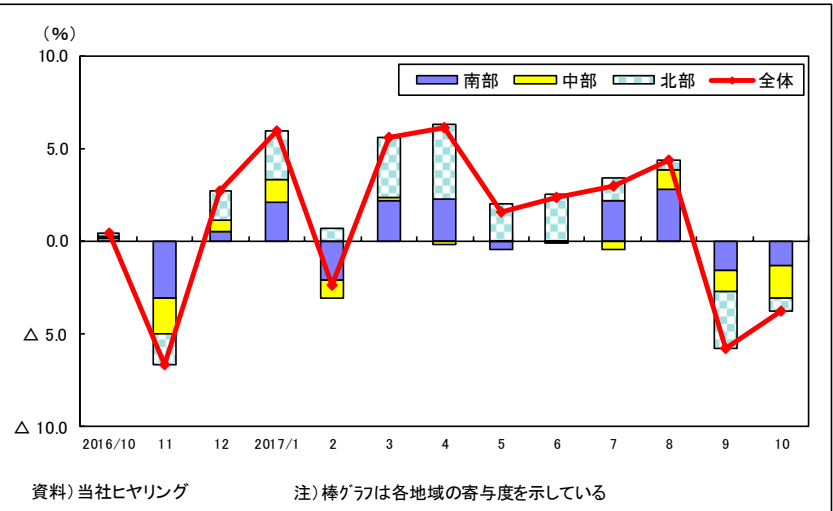
「台湾(同26.3%増)」「韓国(同10.4%増)」「中国本土(同19.5%増)」「香港(同30.6%増)」

※乗務員等を除く2017年10月実績=全体770,600人(同3.5%増)、外国客200,500人(同17.2%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/10	0.4	0.3	0.9	0.4
11	△ 6.7	△ 7.4	△ 14.2	△ 3.7
12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 2.4	△ 5.6	△ 7.6	1.3
3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△ 1.8	8.5
5	1.5	△ 1.2	0.04	4.2
6	2.4	△ 0.1	△ 1.3	5.0
7	3.0	6.7	△ 3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△ 4.7	△ 10.5	△ 5.6
10	△ 3.8	△ 3.3	△ 14.5	△ 1.5



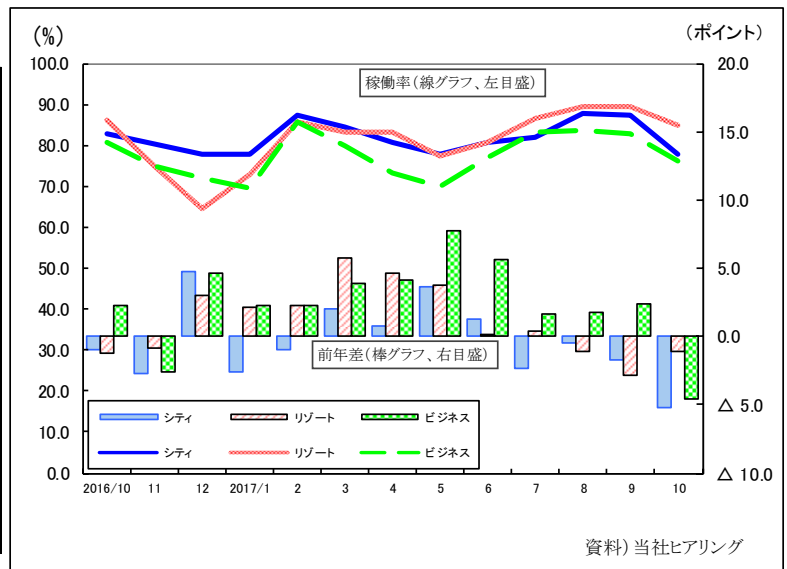
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 3.8%減少(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 3.3%減と2ヵ月連続、中部は同 14.5%減と2ヵ月連続、北部は同 1.5%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/10	82.9	86.0	80.9	△ 1.0	△ 1.2	2.3
11	80.2	75.1	75.0	△ 2.7	△ 0.9	△ 2.6
12	77.6	64.4	72.0	4.8	3.0	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3
3	84.3	83.0	79.8	2.0	5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	0.8	4.6	4.1
5	77.8	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	80.9	80.8	76.9	1.3	0.1	5.6
7	82.0	86.6	83.0	△ 2.4	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.5	△ 1.1	1.8
9	87.4	89.3	82.8	△ 1.7	△ 2.8	2.4
10	77.7	84.9	76.3	△ 5.2	△ 1.1	△ 4.6



注) シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

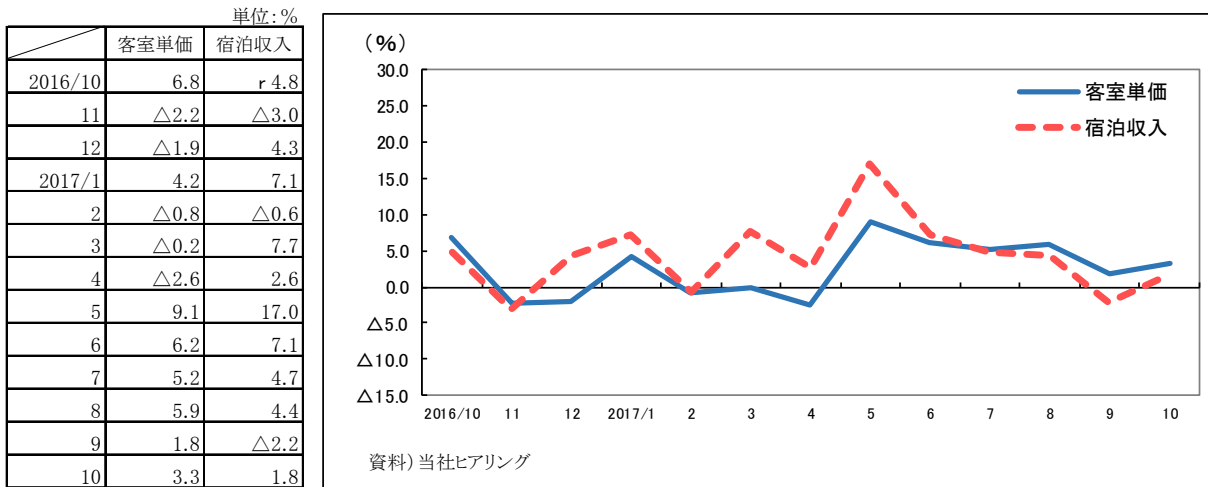
注) 2015年10月より、シティホテル対象施設数が増(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が増(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 77.7%と 5.2ポイント減少(4ヵ月連続)、リゾートホテルが 84.9%と 1.1ポイント減少(3ヵ月連続)、ビジネスホテルが 76.3%と 4.6ポイント減少(11ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数:27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

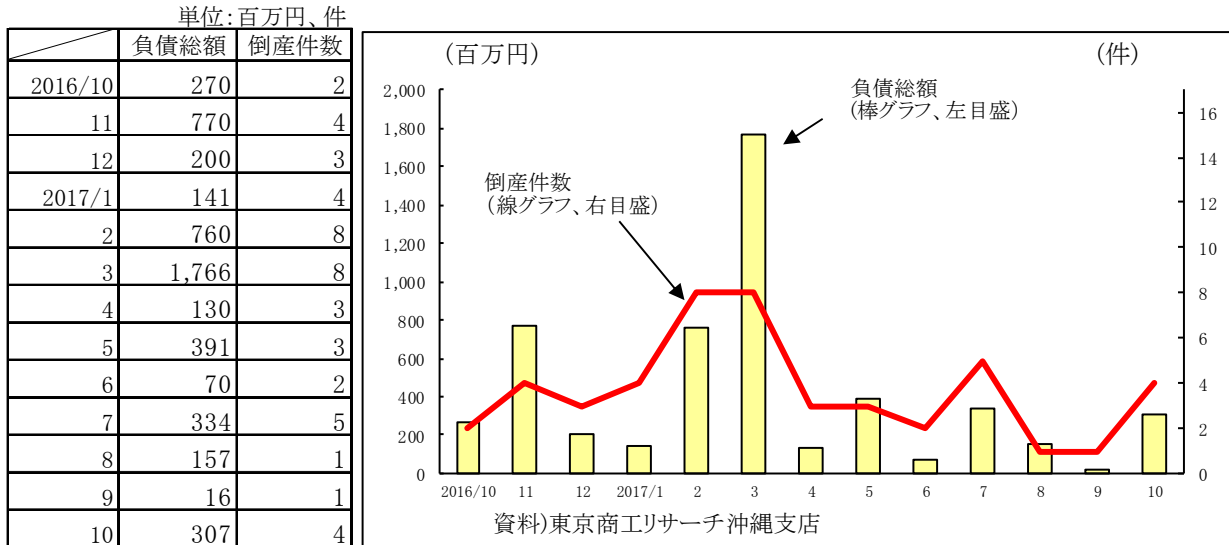
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 3.3%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同1.8%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

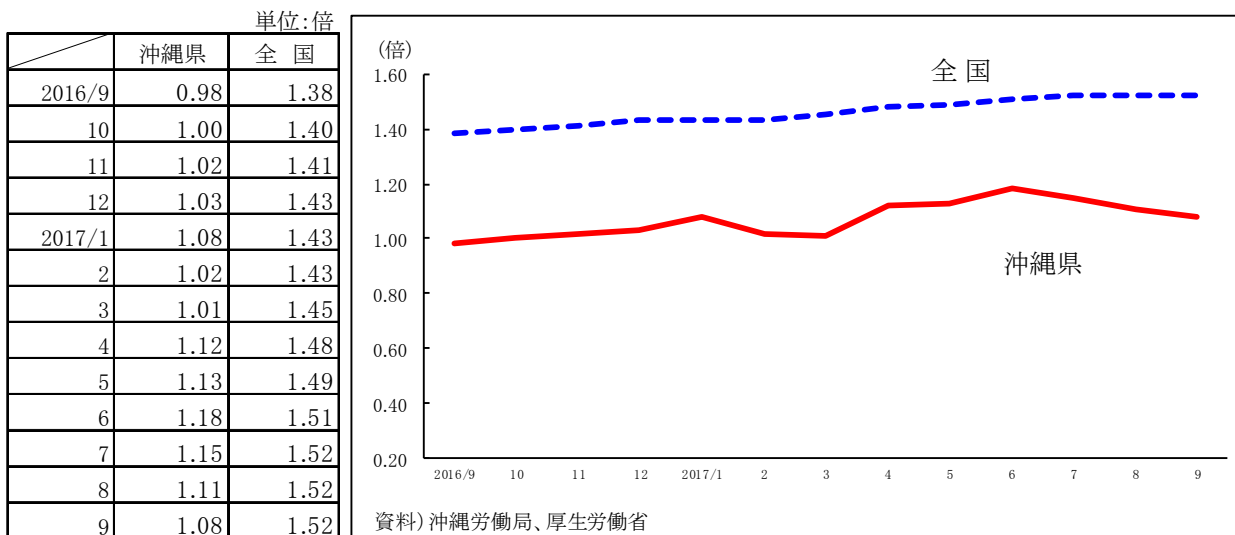


10月の企業倒産件数は、4件(うち大口倒産は1件)となり、同100.0%増と前年同月を上回りました。負債総額は3億700万円となり、前年同月より13.7%増加しました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(9月)・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。



注) 季節調整済

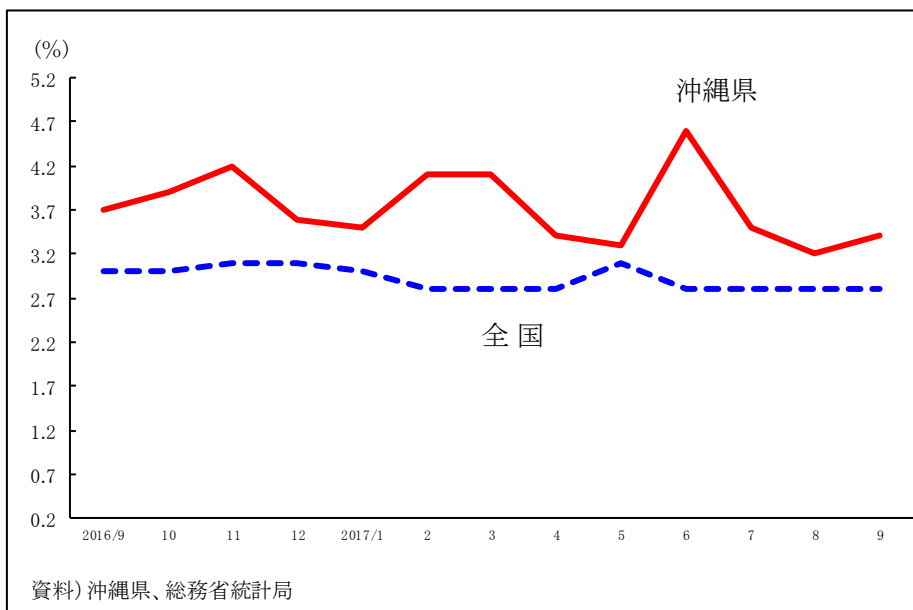
注) 季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

9月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比2.9%減の27,424人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.8%減の25,337人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.08倍となり前月より0.03ポイント低下しました。

完全失業率（9月）・・・沖縄は前月より上昇、全国は同水準。

単位:倍		
	沖縄県	全国
2016/9	3.7	3.0
10	3.9	3.0
11	4.2	3.1
12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8
4	3.4	2.8
5	3.3	3.1
6	4.6	2.8
7	3.5	2.8
8	3.2	2.8
9	3.4	2.8

注) 季節調整済



9月の完全失業率(季節調整値)は、3.4%となり前月より0.2ポイント上昇しています。